プリンキピア特別講演会

地球は昔も今と同じ青色だったのだろうか？

2024年

8月8日 木曜日 13:00—14:00

講師
松尾 太郎 准教授
理学研究科

司会
寺崎 一郎 教授
理学研究科長・理学部長

予約不要・先着 20 名

会場　名古屋大学 2008 ノーベル賞展示室
（ES 総合館 2 階）
https://www.sci.nagoya-u.ac.jp/nobel2008/

惑星科学者であり、SF 小説家であったカール・セーガン博士は、遠く離れた Voyager 1 号から撮影された地球を“Pale blue dot”と名付け、次のように表現しました：広大な宇宙の中で地球は点にしか過ぎないが、私たち人類・生命にとって、その淡く青い点こそが全てであると。

“Pale blue dot”が私たちに教えてくれたことは、太陽系外の惑星は点であること、そして惑星の色、とりわけ青い色が生命を育む象徴かもしれないということです。

45 億年の地球の歴史を通して、地球は青色だったのでしょうか？
私たちは、遠く離れた惑星における生命のサインを探す上で、全球規模で環境変化を起こした光合成生物の理解が鍵であると考えています。光合成生物は、現在の地球とは全く異なる表層環境で誕生し、その表層環境もその誕生によって変化した可能性があるからです。

本講演では、私たちが宇宙でどのような生命のサインを探そうとしているのかを紹介し、光合成生物の進化を考察することによって過去の海の色が緑色だったかもしれない可能性をお話します。

生命を育む惑星は“Pale green dot”だったのでしょうか。

プリンキピア特別展示

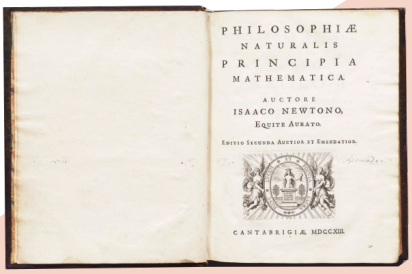
展示期間
7/30 (火) ～ 8/9 (金)

アイザック・ニュートン著　『プリンキピア』（第 2 版）

万有引力でお馴染みのニュートンの著書。
普段、貴重書として保管されている原書を期間限定で展示します。

展示場所　2008 ノーベル賞展示室
開館時間 10:00 ～ 16:00　　日・月曜日は休館

＼ 会場でご覧いただけます ／


PHILOSOPHIÆ
NATURALIS
PRINCIPIA
MATHEMATICA
AUCTORE
ISAACO NEWTONO,
EQUITE AURATO.
EDITIO SECUNDA AUCTIOR ET EMENDATIOR.
CANTABRIGIÆ, MDCCXIII.